【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第２部門第４区分
【発行日】平成17年4月7日(2005.4.7)

【公開番号】特開2000-118090(P2000-118090A)
【公開日】平成12年4月25日(2000.4.25)
【出願番号】特願平10-294040
【国際特許分類第７版】
　Ｂ４１Ｊ　29/38
　Ｂ４１Ｊ　 5/30
　Ｂ４１Ｊ　29/46
【ＦＩ】
　Ｂ４１Ｊ　29/38　　Ｚ
　Ｂ４１Ｊ　 5/30　　Ｚ
　Ｂ４１Ｊ　29/46　　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成16年5月21日(2004.5.21)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７２】
　このような構成における本実施例のプリント動作を図17を参照して説明すると、図６に示した動作と同様にステップS10 ～ステップS26 の処理が実行される。その後ステップS220に進んで、メモリカード16にプリント履歴ファイルが存在するか否かが確認され、履歴情報が記録されたプリント履歴ファイル(PRT_HIST.TXT)が存在する場合には、ステップS28 に進んで、メモリカード16に記録されたプリント履歴情報に従って以降の処理が行なわれる。また、ステップS220において、プリント履歴ファイルがメモリカード16に存在しなかった場合にはステップS222に進み、メモリカード16内の履歴情報1502には、タイムスタンプ情報として、たとえば"AUTOFILE_DATETIME=0000:00:00:99:99:99" が書き込まれる。次いでステップS32 に進み、メモリカード16にATP ファイル500 があるか否かが判定される。ここでATP ファイル500 があった場合には、図８に示したステップS58 に進んで自動プリント処理を行なう自動プリントモードに移行し、逆にATP ファイル500 がメモリカード16にない場合には図７に示したステップS36 に進んで個別プリントモードに移行する。自動プリントモードに移行した場合に、図８のステップS78 に進むと、ATP ファイル500 の実際のタイムスタンプと、先に書き込んだプリント履歴ファイルのタイムスタンプとは一致しないのでステップS80 における自動プリントシーケンスが処理される。その処理中において、タイムスタンプを含めたプリント履歴ファイルの記載情報が更新されつつ、前述の第１の実施例にて説明した処理が行なわれる。このようにメモリカード16中にプリント履歴ファイルが存在しない場合には、最後に実行した自動プリントが正常終了している場合と同様に処理が行なわれる。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００７７
【補正方法】変更
【補正の内容】
　　【００７７】
　　【発明の効果】

このように本発明によれば、自動プリント実施中に予期せぬ理由により自動プリントが中止された場合でも、プリンタが動作可能状態に復帰した場合に自動プリントを途中から再開できる。また、処理手順に応じた表示が出力されるので、操作者は自動プリントが可能かどうか、自動プリントが可能な場合でも、そのプリント動作が、新規の自動プリント処理であるのか、前回から継続する自動プリント処理であるのかなどが明瞭に認識できるので、使い勝手のよいプリンタが提供される。また、その表示内容に応じて、プリンタの処理動作を続行させたりキャンセルしたりすることができるので操作者の意志に応じて動作可能である。さらに、操作者の誤操作などによって同じ自動プリント(ATP)ファイルを使用して自動プリント処理を２回以上実行してしまうことが防止され、時間および消耗品等の資源を無駄になることが防止される。このように、万が一自動プリントが予期せぬ自体によって中断された場合であっても、適切に自動プリント動作を再開することができ、指定した自動プリント動作を確実に実行して、指定されたプリントを過不足なく確実に得ることができ、また操作性のよいプリント制御方法およびプリンタ装置が提供される。